

## 地下鉄道と

# アンクル・トム



アメリカにおいて南北戦争をひき起こし、奴隷制度を廃止させる原動力になったといわれるH・B・ストウ夫人の「アンクル・トムの小屋」。その中で一家離散の運命から逃がれようと、奴隷のジョージ・ナリスは、妻子を連れ、主人公アンクル・トムに別れを告げて逃げだす。目ざす先はカナダ。一家は、いろいろな困難に出会いながら、途中親切な人々に助けられ、どうにかカナダの小さな町にたどり着く。

「ひとたびそこに足を触れば、いかなる奴隷制度の呪文でもたちまちその魔力を失う」（山屋・大久保共訳書）その岸辺から、一家は「避難所を探し求めてやってくる追放された人々や、さまよい歩く人々」に手をさしのべるある宣教師の住居へ案内される……。

この物語にあるように、南北戦争前のアメリカでは、北部へ逃げ込んだ奴隷が南部へ連れ戻されないように、逃亡奴隷を助ける地下組織ができていた。「地下鉄道」と呼ばれたこの組織は、南部の農場から逃げてきた奴隷に隠れ場所、お金、

食糧、衣服などを与え、北部のいわゆる「自由州」や、それよりもっと安全なカナダへ導いていった。逃亡奴隷をかくまってくれる家は駅、ひとつの駅から次の駅へ橋渡しをする人は「車掌」、また逃亡奴隷自身は「貨物」と呼ばれた。奴隷の逃亡を助けるのももちろん違法で、駅員も「車掌」も自らの逮捕または命をかけての仕事だった。

アメリカ南部の奴隷がカナダへ向かったのは、それなりの理由があった。当時のカナダはアッパー・カナダとローワー・カナダという二つの英国植民地からなっていて、アッパー・カナダ（現在のオンタリオ州一帯）では、アメリカの独立戦争で英国側を支持した人たちが、奴隷をともなつて逃げてきていた。しかし、奴隷制に反対する初代英国総督ジョン・シムコーの熱意によって、早くも一七九三年には、これ以上アッパー・カナダに奴隷を導入することを禁じ、すでに奴隷となつている者の子供は二十五歳に達した時に解放されるという法案が、議会で採択され、奴隷制は事実上廃止された。英帝国で奴隷制が廃止されたのは一八三四年だから、カナダの奴隷廃止はかなり早い。

カナダの奴隷解放は、一八一二年の英米戦争から帰ってきた兵士たちを通じて、南部各州の奴隷の耳に届いた。やがて、ナイヤガラ川近辺で、南部から逃げて来た黒人の顔が見られるようになり、その数はだんだん増えていった。アメリカからカナダへ逃げてきた奴隷の数は、一八

五〇一五年だけで五千人、全体では二万五千から四万人にのぼるといわれている。

「アンクル・トムの小屋」に話を戻すと、信仰心の厚い主人公トムは、数奇な運命のもと、南部へ売り飛ばされ、そこで気の荒い主人になぶり殺されてしまう、という筋書きになっている。

ところが、ストウ夫人がアンクル・トムのモデルに使ったといわれる人は実際に、妻と子供四人を連れてカナダへ逃げ、そこでやはりかつては奴隷であった人々の共同開拓村を創設したという。



「アンクル・トム」のモデルといわれるジョン・サイア・ヘンソン

その男の名前はジョサイア・ヘンソン。ヘンソンの半生は、なるほど、アンクル・トムのたどったそれと酷似している。

メリーランドで一七八九年に奴隷として生まれたヘンソンは、十八歳でキリスト教徒になり、二十二歳で結婚して十二人の子供をもうける。メソジスト正教会の説教師となり、他の黒人奴隷の監督を任されるほど主人から信頼された。しかし、

ある日、主人のイトコのお伴でニューヨークへ行くことになったヘンソンは、自分が売られに行くんだということを知っている。ヘンソンは家族と共に国境を越えて、現在のアッパー・カナダへ逃げ込んだ。一八三〇年のことであった。

カナダに着いたときのことを、ヘンソ

ンは後年、次のように述懐している。「カナダの土を踏んだとき、私は思わず地面に身を投げ出して、爆発しそうな狂喜に任せていろいろおどけたまねをしました。それを見ていた人たちはびびくりして、たまたまそこに居合わせたワレン中佐などは私が発作でも起こしたかと思つて、どうしたんだと聞きました。私はぴよんと立ち上つて言ったものです。私は自由だ、と。中佐は『これは驚いた。自由になったら人は砂の上で転げ回るなんて、これまで知らなかったよ』と大声で笑つたものです。」

カナダへ着いたヘンソンは、やがて説教師から組織者へ転じる。彼は、当初、教区の人々に土地を貸してタバコや小麦の作り方を教えていたが間もなく、アメリカの奴隷反対運動で活躍していたハイラム・ウィルソンと共に金を集め、オンタリオ州のドーン（「夜明け」の意味）というところにおよそ八百平方キロメートルの土地を買つて、逃げてきた人々のための農業学校を開く。その学校の周囲には五百人ばかりの人々が村落を作り、約六千平方キロメートルの土地でタバコ、小麦、燕麦などを栽培した。

ストウ夫人がヘンソンに会つたのは、一八四九年だったという。「アンクル・トムの小屋」が新聞に連載で発表されて大反響を呼んだのは一八五一年から翌年にかけて（本が出版されたのは一八五二年）、南北戦争が起きたのは一八六一年、そしてアメリカ合衆国で奴隷が解放されたのは一八六三年のことである。（Y）